

厚生労働科学研究「障害児入所支援の質の向上を検証するための研究」概要

公募研究課題

研究課題名 障害児入所支援の質の向上を検証するための研究

目標

障害児入所施設には、専門的ケアを必要とする被虐待児等の入所も多く、支援内容の充実が求められている。このため、今後の障害児入所支援の質の向上についての検討や平成30年の福祉サービス等報酬改定に向け、事業所等調査やタイムスタディ等の調査手法を用いて、福祉型障害児入所施設及び医療型障害児入所施設の業務実態の基礎データ等の収集及び分析を行う。

求められる成果

- 医療型および福祉型の障害児入所施設のそれぞれの主な障害種別ごとに、
- 入所児童の状況、支援体制、支援内容に関するデータ
- 職種ごとの勤務実態に関するデータ
- 被虐待児等への、支援、自立支援、家庭支援、地域支援などの支援体制や支援内容等に関するデータ
- 関係機関との連携状況に関するデータ

研究実施予定期間 2年間(平成28年4月1日～平成30年3月31日)
平成29年8月を目途に中間報告を行う

研究代表者 北住映二 心身障害児総合医療療育センター (B1, B2)

研究分担者
小崎慶介 心身障害児総合医療療育センター 整肢療護園 (B1)
米山明 心身障害児総合医療療育センター (B1, B2)
下山田洋三 愛徳医療福祉センター (B1, B2) 被虐待児関係担当
小山友里江 慶応大学看護医療学部 統計的立案分析担当

福祉型施設からも研究分担者になってもらうのが本来だが、厚生科研の研究者登録の問題から、今回は、おもに医療型施設のメンバーを研究分担者とし、福祉型施設からは研究協力者として加わっていただく。

研究協力者
水流純大 知的障害児入所施設あさひが丘学園 (A1, A2 ①)
石井啓 自閉症児入所施設のひろ学園 (A2 ②)
金井剛 あすなろ学園 (B3 ②)
鶴木順子 法然寮 (A3 ③) 濱崎久美子 金町学園 (A4 ③)
市川進治 精養学園 (A5 ④)
鈴木恒彦 大阪発達総合療育センター (B1, B2 ⑤、⑥)
朝貝芳美 信濃医療福祉センター (B1, B2 ⑤、⑥)
伊達伸也 東部島根医療福祉センター (B1, B2 ⑤、⑥)
井合瑞江 神奈川県立こども医療センター重症心身障害児施設 (B2 ⑥)、他

所属団体 ①日本知的障害者福祉協会、②全国自閉症者施設協議会、③全国盲ろう難聴児施設協議会、④日本肢体不自由児療護施設連絡協議会、⑤全国肢体不自由児施設運営協議会、⑥日本重症心身障害福祉協会

A 指定福祉型障害児入所施設

1. 「主として知的障害児を入所させる施設」
2. 「主として自閉症児を入所させる施設」
3. 「主として盲児を入所させる施設」法然寮、ヘルナー財団平和寮、横浜盲学院、米山寮
4. 「主としてろうあ児を入所させる施設」清明あけぼの学園 (1+3+4?)
室蘭盲聾学園 (聴覚障害児以外も対象)、金町学園 21名
5. 「主として肢体不自由児を入所させる施設」
白糠学園 (北海道)、精陽学園 (神奈川)、ねむの木学園 (静岡) 5は平成27年4月1日現在
四天王寺太子学園 (大阪)、おおぞらのいえ (兵庫)、華の浦学園 (山口) 6施設 201名
うち18歳未満 155名

1, 2合計224施設
平成25年調査回答173施設
入所定員6629、現員5719
うち18歳未満71.2%

B 指定医療型障害児入所施設

1. 「主として肢体不自由児を入所させる施設」
(実際の入所児は重症心身障害児も多数)
公立法人立施設(従来の「肢体不自由児施設」)
59施設1609名 (H27年1日現在うち18歳未満1438名) (有期限入所と長期入所)
2. 「主として重症心身障害児を入所させる施設」
公立法人立施設(従来の「重症心身障害児施設」) 125施設
入所11788名 (H27年4月1日現在、ほとんど長期) うち児童10.3% 一約1200名
国立病院機構重症心身障害児者病棟 70施設 7000床 うち児童700名?
3. 「主として自閉症児を入所させる施設」 12施設 (あすなろ学園、みよし学園)

調査研究計画

1. 全施設への悉皆的なアンケート調査

各種別施設の入所児童の状況、支援体制、支援内容等についての調査、被虐待児童等特別な家庭状況にある入所児の現状・自立支援・家庭支援・地域連携支援についての調査を、全施設およびその施設の管理責任者に対してアンケートで行う。直接支援職員(保育士・指導員等)、心理担当職員、ケースワーカーなど、職種別のアンケートも加える。

2. タイムスタディ調査

各種施設の代表的な施設において、職員の入所中の児童への対応を主としたタイムスタディ調査を行う。

平成28年度

- 1のアンケート調査を行う。その分析を行う。
- 2のタイムスタディ調査の計画立案を行う。

平成29年度

- 2のタイムスタディを実施、分析する。
 - 1の施設アンケート調査結果を詳細分析(好事例など)、必要に応じ追加調査も行い、検討、報告する。
- 平成29年度8月を目途に中間報告を行う

調査、分析にあたっては、数的な処理・分析だけでなく、問題点、課題、方向性など、質的な面での把握・評価・分析が充分に行えるように、調査の立案と分析にあたって、配慮していく

「障害児入所支援の質の向上を検証するための研究」の流れ

